

日程：令和7年2月8日（土）

場所：第3学年教室（北館4階）

対象：第3学年生徒（各学級36名）

単元：「民主政治と政治参加」「国民の生活と政府の役割」

1. 本時の主題 「大阪のまちづくりを考える」

2. 教材観

「民主政治と政治参加」は、個人の尊重と法の支配などの理解を基に、民主政治の推進について考察、構想し、表現することができる適切な課題を設け、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することを主なねらいとしている。「国民の生活と政府の役割」は、国民の生活と福祉の向上を図ることに向けて、政府がどのような役割を果たすべきなのかについて考察、構想し、表現することができる適切な課題を設け、国民の生活と政府の役割について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を育成することを主なねらいとしている。この2つの単元のねらいを並立する課題として今回は「大阪のまちづくりを考える」を設けた。生徒はこの課題に取り組むなかで、実社会にある課題とその展望に向き合い、学習と周りの世界をつなげる真の機会を得ることができると考える。また、仲間と協働して情報の真偽を多面的・多角的に考察し、それを基に見解を述べることを体験して、生徒の社会的事象に対する論理的探究心が育まれ、社会に主体的に関わろうとする態度が養われると考える。

3. 単元について

（1）単元目標

- ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みと政党の役割を理解する。
- ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることを理解する。
- ・地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成する。
- ・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実についての意義を理解する。
- ・財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する。

（2）単元の指導計画（計14時間）

第1次「国の政治のしくみ」（7時間）

第2次「地方自治とわたしたち」（2時間）

第3次「おおさかのまちづくりを考える」（3時間 本時はこのうち1時間目）

第4次「財政」（2時間）

4. 本次の学習過程

(1) 本次の目標（合計3時間で構成）

- ・地方公共団体の仕事わたしたちの生活に結び付いていることを理解する。
- ・まちづくりについて、仲間とともに資料を用い、多面的・多角的に考え、自らの意見を述べる。
- ・まちの活性化に向けたまちの取り組みに関心を持ち、まちづくりに積極的に関わる意欲を高める。

現代社会は、必要とする情報を簡単に手に入れることができる反面、その情報は正確さより関心に重きがおかれている危険性、自分の願望に基づいて集めた情報である危険性を併せもつ。そこで本次では、「情報源の正確性を見極めること」と「得た事実を基に自らの意見を述べること」に主眼をおいて学習を展開する。学習の成果物としては「大阪のまちづくりについての対談記事をつくる」を設定する。対談記事には「私」・「地方公共団体」・「司会者」を登場させる。「私」は班で立案したテーマを地方公共団体に対して資料を用いて説明をする。「地方公共団体」は提案の妥当性について客観的にコメントをする。「司会者」は効率的・公正に対談を進める。この対談記事をつくる活動は、生徒が得た知識と自らの考えを外化し、事実と意見とに分けて他者に伝えることを期待するものである。本時の展開のなかで、社会の形成者として能動的に社会的事象をとらえる力が育成できると考える。

(2) 本次の評価規準

知識・技能	地方自治は住民自治が基本であることを理解し、直接請求権などの政治参加の知識を身に付けている。
思考・判断・表現	まちの課題を多面的・多角的に考え、より良いまちづくりに向けて根拠となる資料を用いて提案をまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	地方自治に対する関心を高め、住民自治の原則にもとづき意欲的に自分たちのまちづくりに参加しようとしている。

(3) 本時の展開

学習内容	学習活動	留意点・（評価の観点）
導入	大阪のまちづくりの動画について振り返る。 授業・取り組みの見通しを説明する。	
展開①	<u>大阪のまちについて、今ある課題を話し合う。</u> ・模造紙と付箋を用いて班で意見を出し合う。 ・出た意見をKJ法で分析をする。	お互いの意見を否定することがないように留意する。（思・判・表）
展開②	<u>テーマを決定し、クラスでテーマの交流をする。</u> ・テーマの見直しを適宜行う。	「なぜ大阪は【課題】なのに、【取り組み案】しないのか。【取り組み案】したら【目指すまちの姿】になるのに」でテーマをまとめる。 （思・判・表）（主体的）
終結	まとめと次の時間へのつながり	テーマの根拠となる情報を収集し、真偽を多面的・多角的に考察することを予告する。

謝辞：本研究は、JSPS 科研費 24H02459 の助成を受けたものである。

付記：本研究は、大阪教育大学倫理委員会における倫理審査の承認（受付番号 24022）に基づき実施している。